

足立区議会公明党

一般会計	認	定
国民健康保険特別会計	認	定
介護保険特別会計	認	定
後期高齢者医療特別会計	認	定
老人保健医療特別会計	認	定

近藤区長初の予算編成は、特に「こども・環境・治安」に財政資源を集中的に配分した。歳出では、財政硬直化の一因である義務的経費比率の拡大が続き、23区の平均を超えている。全体を通して、歳入総額が比較的堅調だったこともあり、特別区債の年度末現在高は86億円減の91億円、積立金は166億円増の92億円となった。

区長のリーダーシップのもと、放課後子ども教室の拡大等の子ども施策、公園新設等の環境施策、まちの美化と防犯推進、区立小・中学校校舎の耐震化完了等を実現したことは評価する。

また、日暮里・舎人ライナーの利用者も一日平均5万5千人と順調に増加し、人口も66万人を超えたことは、インフラ整備



小泉 ひろし 委 員

が進展し、区の魅力が増したと言え。しかし、特別区税の減少と、社会保障関連費の増加、更には、国の補正予算見直しで全てが定まらない中、今後は、ガソリン税の暫定税率廃止による財源・国庫補助金の減少で、竹ノ塚駅周辺の整備、自転車駐車場の整備拡大、ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりの推進、大規模災害発生を想定した対策強化、区民に親しまれる公園整備区関連施設が費やす公共料金等の一括管理と見直し等への取り組みを要望する。

最後に、本特別委員会において我が党各委員が指摘した事項を重く受け止め、提案・要望事項についても今後の予算に反映させ、区民感覚を大切に区政運営し、その実現に邁進するよう強く求める。

足立区議会自由民主党

一般会計	認	定
国民健康保険特別会計	認	定
介護保険特別会計	認	定
後期高齢者医療特別会計	認	定
老人保健医療特別会計	認	定

平成20年度予算は、近藤区長が自らの手で初めて編成した年間総合予算であった。また、行財政運営方針において、特に「こども施策・環境施策・治安回復施策」に的を絞る、集中的に行財政資源を配分した。厳しい環境の中、区が抱える課題等にどう取り組むかが問われた年でもあった。「魅力と個性のある美しい生活都市」「自立し支えあい安心して暮らせる安全都市」「人間力と文化力を育み活力あふれる文化都市」「自己進化する協働型自治体」の四つの分野別に予算編成がなされ、複数年度方式、包括予算制度により、各部が区民ニーズに的確に対応する姿勢が定着してきたと言える。

区税収入は前年度比2.6%、11



ほっち 易隆 委 員

とりわけ、都区財政調整交付金や特別区民税の減収が見込まれる中、税制改正の動きも予測を許さず、区財政はさらなる厳しさが増すと想定される。併せて、義務的経費の伸びが予想され、公共施設の更新需要等、引き続き財政の健全化に取り組む

要となった。待機児童の解消、小規模多機能施設等介護サービスの拡大、実、「はるかぜ」路線網の更なる拡大、自転車駐車場の整備拡大、ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりの推進、大規模災害発生を想定した対策強化、区民に親しまれる公園整備区関連施設が費やす公共料金等の一括管理と見直し等への取り組みを要望する。

最後に、本特別委員会において我が党各委員が指摘した事項を重く受け止め、提案・要望事項についても今後の予算に反映させ、区民感覚を大切に区政運営し、その実現に邁進するよう強く求める。

特別の 算員論 (要旨) 決委討

平成20年度は未曾有の経済危機到来で区民の生活と中小企業をどう支えるかが問われるとともに、増税・負担増の苦しみの中、後期高齢者医療制度が導入され怒りが沸騰。近藤区長における2年目の決算であると同時に区政運営の姿勢が問われた。基金は過去最高の992億円となった。一方、お金がないと言いつつながら接道条件が悪い土地を購入。本当に必要な土地の疑問が残るとともに、東京藝術センターと竹の塚公共駐車場に金投入も明らかになった。



伊藤 和彦 委 員

な区民の声が寄せられた。しかし、区の対策は不十分であると進める姿勢が弱く、区民サービスは低下、暮らし応援の姿勢に欠ける決算で、容認できない。介護保険は、利用抑制で多くの区民が困る一方、余剰金は一般会計に歳入する等の問題点を厳しく指摘してきた。しかし、基金を活用し、保険料値上げストップをしたことは評価できる。国民健康保険特別会計は、均等割で1千800円の値上げ。新たな負担を強いる後期高齢者医療制度が実施、特別会計が設置された。両会計に共通して、低所得者ほど保険料負担増の割合が高く、高額所得者ほど今までの国保料より大幅に負担が減り、所得再配分機能を弱め、到底認められないものではない。

また、技術職員不足を補うとされた「PM的手法」導入は学校改築を遅らせた。保育料は値上げ、障がい者巡回入浴は有料化、めらるるものではない。

I等で関わる民間事業者の十分な選定と監督。生活保護受給者や年金生活者も利用できる介護施設を支援し、「介護難民」を生み出さない工夫。カラーも含めたユニバーサルデザインの推進や相談等を受け付ける担当や窓口の設置。雇用創出を伴う事業に、生活保護受給者を積極的に採用するシステムの導入。ハラメントを明確に定義し、区職員の啓発活動を行うこと。中国残留帰国者のバックアップ。

この決算審査においては、深刻化する不景気が、区でも「格差」の問題となっており、子どもやお年寄り、障がい者の生活を脅かすという面が浮き彫りになった。これらの指摘に対し、今後の予算編成並びに執行、政策に反映することを強く要望する。



長谷川 たかこ 委 員

平成20年度予算は、近藤区長になって初めての予算編成であり、「こども・環境・治安」を柱にしてきた。より良い足立区を残すための未来志向型事業の実施は、細かい問題はあるものの、全体として高く評価する。

しかし、依然として歳入は財政調整交付金に頼り、自主財源である特別区税は23区内でも低い水準にある等厳しい現実があり、構造的な問題として区政を脅かしている。

また「環境サミットin足立」について、当初予算の10倍の4千626万円にもなった問題もあり、議会審議の空洞化を招かぬよう、反省と検討をお願いしたい。さらに、ワンチャリ・ツーロツク運動は、放置自転車対策や自転車盗をさせないための教育等時間をかけて取り組む内容が少ないうえ、傾向を指摘した。

加えて、次の指摘をした。厳密な予算編成と執行率の向上。区で働く非常勤職員、指定管理・業務委託従事者の賃金・労働環境整備のための公契約条例の制定。一括で網をかけた地区計画の見直し。教育基本法・学校教育法・学校給食法等、関連法令の遵守。修学資金貸付の弾力的な運用。区の施設を、障がいを持つ方にも使いやすいようにすること。委託や指定管理、PF

足立区議会民主党

一般会計	認	定
国民健康保険特別会計	認	定
介護保険特別会計	認	定
後期高齢者医療特別会計	認	定
老人保健医療特別会計	認	定

日本共産党足立区議団

一般会計	不	認
国民健康保険特別会計	不	認
介護保険特別会計	認	定
後期高齢者医療特別会計	不	認
老人保健医療特別会計	認	定